

## 胸部食道癌の温熱化学放射線療法：全胸部領域加温と放射線肺炎発生との関連

産業医大・放 矢原勝哉、大栗隆行、戸村恭輔、上田一生、阪上茉衣、興梠征典  
戸畑共立・がん治療センター 今田肇

【目的】放射線治療の効果増感を目的とする深部領域加温では、十分な温度上昇を得るために広範な領域を加温する必要があり、食道癌の場合、全胸部領域が加温される。温熱療法が放射線肺炎の発生に影響するか否かを検討した。

【対象と方法】胸部食道癌に対して根治的放射線療法を施行した 89 例について後ろ向きに検討した。温熱療法は 8MHz 誘電加温装置により 30cm 径の加温電極を用いて行い、放射線治療期間中に同時併用した 37 例を温熱群、併用しなかった残り 52 例を非温熱群とした。放射線治療の総線量は温熱群(中央値 60Gy)、非温熱群(中央値 60Gy)、肺平均線量は温熱群(中央値 7.5Gy)、非温熱群(中央値 7.8Gy)、肺 V20 は温熱群(中央値 12.2%)、非温熱群(中央値 13.5%)であった。

【結果】Grade 2 以上の放射線肺炎の発症率は、温熱群で 3 例(8%) (Grade 2:1 例 Grade 3:2 例)、非温熱群で 4 例(7%) (Grade 2:3 例、Grade 3:1 例)と両群間で差を認めなかった。発症時期の中央値は放射線治療終了後 6 ヶ月(3-10 ヶ月)であった。肺平均線量と肺 V20 は Grade 2 以上の放射線肺炎発症と有意に関連した( $p < 0.05$ )。

【結語】胸部食道癌に対する全胸部領域の温熱療法の施行と放射線肺炎発生に関連はみられなかった。